しただの郷学園小学校の統合　進捗説明会概要

日　時：令和８年２月 23 日（月・祝）
時　間：午後２時開会　午後３時 21 分閉会
場　所：下田公民館
参加者数：33 人

１　市長あいさつ
（省略）

２　資料説明
～資料に沿って説明（野水教育総務課長）～

３　主な質疑

○　準備委員会で質問した、駐車場の件が回答されていない。お金を掛けずに統合しようとしているようにしか見えない。学校行事には保護者にも参加してもらいたい。駐車場がないのに、統合することばかり言ってても仕方ない。駐車場の拡充を約束してほしい。

→（平岡教育部長）　おっしゃるとおり、統合により児童数が増えることで保護者等の集まる人数が増え、その分の駐車場が必要なことは想定している。駐車場の確保についてはこれから検討していく。

→　検討すると言って、できなかったでは困る。約束をしてほしい。

→（平岡教育部長）　今の段階で約束はできない。今後の検討課題とすることで御理解いただきたい。

○　駐車場は、ウエルネスしただなど近隣の徒歩 10 分圏内に複数ある公共施設を活用するなど、拡充だけでなく、借用することを含め柔軟に考えていただきたい。また、ウエルネスしただの駐車場を借用することとした場合、同時間帯に学校とウエルネスしただでの事業が重なると、お互い困ることになる。事業管理も含めて、検討いただきたい。

→（平岡教育部長）　御意見も含めて、柔軟に考えていきたい。

○　小学校５つが１つになることが最初から決まっていたように見え、ショックである。最低でも地域ごとに３つの学校は残してほしかった。下田地域は自

然や人情が良いところであり、住み続けられるようにしたい。小学校が無くなれば、人口減少に拍車がかかるのではないか。どうしたら下田地域に住み続けることができるのかを考えてほしい。昔は一人でも子どもがいれば分校という形で学校を残していた気がする。学校は大きければ良いというわけではなく、小さい学校の良いところもある。地域のことも一緒に考えて小学校の統合を考えてほしい。

→（平岡教育部長）　そうした御意見は、統合の検討をするに当たり早くからいただいてきた。令和６年度に「未来の学校検討委員会」で、市内の小学校の在り方を議論した中で、下田地域の人口減少傾向が著しいということで、まずは下田地域の小学校統合の検討を始めた。現在、既に５校中３校で複式学級の運営をしている。子どもたちの社会性を育むためには、一定の規模で学習することが必要である。むしろ、「なぜもっと早く統合をしなかったのか」という御意見もいただいている。遅きに失することのないよう、統合を決めたことを御理解いただきたい。

○　保育所及び中学校が近くにある立地条件を見れば、長沢小学校の校舎を活用するものと思っていた。保育園の統合時、いいだ保育園に決まった理由も駐車場とのことだった。しかし、飯田方面は行くことが難しく、千代が丘保育所に入れる保護者が多かった。保護者は、駐車場ではなく立地条件を重視している。もっと保護者や子どもの意見を聴いてほしかった。

→（平岡教育部長）　長沢小学校と飯田小学校の校舎のいずれかを決定する経過は、本当に甲乙付け難く、準備委員会でも苦しい判断だった。駐車場が大きな要因となったことは確かである。現在、長沢小学校のスクールバスは２、３台の運用であり問題はないが、統合後、スクールバスを 10 台程度運用することを仮定したとき、十分な安全が確保できるのかが課題であった。スクールバスは毎朝運行するものであり、乗降時に万が一でも、子どもが事故にあっては取り返しがつかないことになる。安全が確保できる可能性が少しでも高い校舎に決定したものであり、御理解いただきたい。

○　保護者は統合をすることを非常に不安に思っており、心配である。引き続き情報を過剰なほど発信していただきたい。自分も個人的には長沢小学校の校舎を活用してほしいが、子どもの安全が第一である。クマ等獣の出没が相次いでいる中、安全を守るために必ずスクールバスでの登下校の検討を進めてい

ただきたいが、そのスクールバスで事故があっては本末転倒である。そこに気づいて提案いただいたことは納得せざるを得ないと思っている。今後は、子どもたちの心のケアを大切にしてほしい。あと２年しかない。他校との交流をいかに進めるのか。統合後に、子どもたちが楽しみに登校できる準備を進めていただきたい。また、クマ等の獣の出没に対しては、子どもたちだけでなく先生の安全も守っていただきたい。クマ対応として先生も子どもたちと一緒に歩いていたが、クマの知識がない先生が一緒に歩いて、子どもたち及び先生自身の安全を守れるのかは疑問であった。

→（樋口教育センター長）　子どもたちの心のケア、特に交流活動については、令和 10 年度に向けて、既に校長と検討をしている。具体的には、小学校の交流でペア校及びトリオ校の組み替えや、これまでペア校トリオ校の活動であったものを５校一緒に交流することなどを考えている。学校任せにせず、教育委員会も指導していきたい。

○　子どもたちに説明したスライドは、このために作成したのか。子どもに統合の話をしたら、「学校がなくなる」といって涙を流した。また、学校で統合の説明を子どもたちにしたとき、涙を流す子どもがいたと校長から聞いた。子どもたちは既に不安であると感じた。この不安を取り除くのは保護者であり、学校や保育所の先生である。受け入れる飯田小学校の子どもたちのケアも同様に、このスライドのようなきめ細かいケアを引き続きお願いしたい。

→（平岡教育部長）　今回の統合において、子どもたちの不安を取り除き、寄り添うことは、最も大事なことである。ペア校、トリオ校の取組や５校の連携の取組、また、日常の学校生活においてもできる限り声かけを行うことを含めしっかり考えていきたい。

○　子どもは泣いて不安がっている。不安な状況を親も払拭してあげなくてはならないと思う。また、知らない小学校に通わなければならないことも不安であると思う、子どもたちに飯田小学校の校舎を見る機会を何度か与えると良いのではないか。

→（相田学校教育課長）　子ども同士の交流を考えていたが、おっしゃるとおり、校舎に慣れることも大事だと感じた。飯田小学校の校舎を使った交流活動や取組を検討したい。

○　廃校となる校舎の利活用について、市の考えはどうか。

→（滝沢市長）　これまでは統合先の校舎が決まっておらず、廃校となる校舎の利活用について話はしなかった。これからは、４校の校舎の利活用を真剣に考えていく。４校とも災害時の避難所となっており、その機能は残しつつになる。地域の声を聴きながらも、利用可能な校舎が４校にもなるので、民間企業・民間団体の活用も募らなければならないと思う。これから、地域や民間企業・民間団体など、様々な意見を募っていく。

○　数年前の大雨のとき、飯田小学校は避難所にもかかわらず周囲が水浸しで誰も近づけず避難できる状況ではなかった。結局、障がい者施設であるピュアハウスを避難所とし自分も炊き出し等行った。大雨となると、五輪峠から想像できないほどの濁流が来る。五輪峠の坂道が川になり、田んぼや畑に濁流が流れる。五十嵐川の氾濫よりも五輪峠からの濁流の方が怖い。避難所を見直した方が良いと思う。

→（滝沢市長）　避難所は今がゴールの形ではない。常々、見直しを行うことで子どもたちの安全を守っていきたい。今後とも御意見やアドバイスをいただくようお願いする。

○　大雨のときの、飯田小学校の水浸しは聞いており、小学校として安全なのか疑問である。同じく、いいだ保育園も大雨のとき濁流に飲まれる。いいだ保育園の下流が飯田小学校であり、更に危険である。

　また、地域から学校がなくなることは、地域からコミュニティがなくなることである。学校を中心にコミュニティが形成されるため、学校がなくなるとコミュニティが崩れていく。将来の下田地域が不安である。今回の統合には地域づくりの観点が抜けていると感じる。もう一度検討をいただきたい。

→（髙橋教育長）　学校を核とする地域コミュニティは十分に考えてきており、地域とともに歩み、学校を創るということを教育委員会から校長先生にお願いしている。多くの自治体で学校の統合が進んでいるが、どの自治体も地域との関係は検討している。しただの郷学園全体で、新しい学校を中心とした新たなコミュニティを考えていかなければならない。各小学校が地域資源を活用して教育活動をしてきた。統合校もその教育活動を受け継ぎ、子どもたちはその地域資源の場所に赴き、地域を愛することを学んでいく。温かい教育資源を創っていただいた皆さんのコミュニティを無駄にすることなく、どのように活かす

のか考えていく。

○　下田地域の特色を生かした教育を進めていただきたいと感じた。また、子どもたちの統合に対する不安を和らげる取組も進めてほしい。自分も下田地域に住む一員として力になれれば良いと思った。

→（滝沢市長）　統合については、皆で考えて意見を出し合いながら実行していく。最終的な責任は我々にあるものの、皆さんからも意見をいただきながら、下田地域全員が一丸となって、子どもたちの未来及び地域のために一緒に学校を創っていきたいと考えている。皆さまの御意見をいただくようお願いしたい。

○　活用する校舎を飯田小学校とすることは、今後また検討があるのか。

→（滝沢市長）　飯田小学校の校舎を活用することは決定事項であり、地域コミュニティについてはこれからの検討事項である。また御意見をお聴かせ願いたい。

４　教育長あいさつ

（省略）